

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和4年度分)

< 県の評価等 >

施設所管部名 教育委員会

1 指定管理者の概要等

Table with 2 columns: Item (施設名称、指定管理者、期間、業務内容) and Value (三重県立熊野少年自然の家、有限会社 熊野市観光公社、平成30年4月1日～令和5年3月31日、5業務内容).

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

Table with 4 columns: Evaluation Item, Self-Evaluation (R3, R4), County Evaluation (R3, R4), and Comment. Rows include Management Implementation, Facility Usage, and Achievement Results.

※「評価の項目」の県の評価 :

- 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

Table with 2 columns: Summary Evaluation (総括的な評価) and Detailed Comments (4 bullet points regarding program diversity, maintenance, user response, and safety).

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①熊野少年自然の家条例第2条に基づく事業の実施に関する業務

- ・青少年及び社会教育関係団体の施設の利用、指導業務、利用許可、料金收受及び関係者への研修業務等に関する業務を実施した。
- ・利用団体にはオリエンテーションを行い、生活面の助言、創作活動及び野外活動等での講習を行い研修活動を支援した。
- ・主催事業では、新型コロナウイルス感染防止対策もあり、予定していた事業の2事業を中止とした。限られた中での事業展開だったため一度に複数事業を開催した。「マリンスポーツを体験しよう」等、他団体との共催事業として実施し、できる限り多くの事業を体験してもらうよう努めた。また熊野市教育委員会等の各種団体と連携し、小学生から一般まで幅広く青少年の健全育成と生涯学習事業を推進実施した。
- ・利用申請、利用許可及び利用料金收受等に関する業務については、取扱い基準、利用料金の納入方法を定め適正に運用した。
- ・「イベントのご案内」を作成し、東紀州地域を中心に小学校へ配布し、施設PRに努めるとともに、ホームページを通じた情報発信(動画配信含む)を行った。また、地元CATV等を活用して主催事業のPRを積極的に実施した他、スタッフブログにより、テレビや新聞では伝わらない熊野少年自然の家のイマを伝えるなど情報発信の充実に努めた。
- ・昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策防止対策の観点から鈴鹿青少年センター、四日市市少年自然の家との3団体で実施予定していた職員研修会等を中止にした。また相互事業間交流(オープンデー)も中止にした。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・利用者アンケートに寄せられた意見や職員の提案等により新型コロナウイルス感染症防止対策として、昨年度に引き続き利用者退所時の布団天日干しを実施した。
- ・令和4年度の修繕費の支出額は4,826,708円を要したが、老朽化に伴う施設設備の整備を積極的に実施した。本年度においては、厨房各々所のメンテナンス、及び令和3年度に計画しながら実施出来なかった女子トイレ洋式化等中心に整備した。また、例年どおり緊急性を要する物件については、速やかに修繕を実施した。
- ・短期(1年)及び中長期(3年以上)等の修繕計画を立て、大規模修繕については、県に協議報告するとともに、小破修繕については、指定管理者において計画的に修繕を実施した。
- ・令和5年度においては、フィールドサーキット撤去について、県、見積り業者と検討していく予定である。

③県施策への配慮に関する業務

- ・三重県まるごと自然体験ネットワーク第6回交流会に出席し、地元材を利用したイベント開催計画等を研修。
- ・三重県熊野庁舎で開催された「ミニ人権大学講座」に職員全員出席。
- ・鈴鹿青少年センター施設改修に伴う、県所管備品の移管を実施した。(TV、天体望遠鏡等)
- ・ESD推進意見交換会に出席、令和5年度ジュニアフォレスター育成講座を当施設を中心に行うことをに決定。
- ・五條市立西吉野農業高校が当施設に宿泊し、梅収穫等の農業体験を実施し、令和5年度においても行う予定。
- ・高山市(岐阜県)で開催された令和4年度東海北陸地区青少年教育施設協議会 運営研究大会に職員4名が出席し、他施設関係者と交流し意見交換会を行った。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・平成22年4月1日から施行している「三重県立熊野少年自然の家の管理に関する情報公開実施要領」に基づき実施している。
- ・令和4年度においては、開示請求はなかった。
- ・三重県が開催する情報公開・個人情報保護制度初任者研修会に職員を派遣し、制度の正しい理解と運用に努めた。

⑤その他の業務

- ・特になし

(2)施設の利用状況

<設定目標>		実績	
延施設利用者数	27,500名	延施設利用者数	13,220人
定員稼働率	17.0%	定員稼働率	8.7%

- ・施設利用者の受入れについては、基本協定書第9条に基づき利用許可基準を定め、三重県行政手続条例及び三重県立熊野少年自然の家条例に基づき適正に処理した。

2 利用料金の収入の実績

- ・利用料金収入目標額 6,874千円に対し、令和4年度実績 3,106千円であった。
- ・学校クラブ、学校研修等で利用する場合、引率者に対し利用料金の減額を適用した。(利用料金の減免額141,500円)

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	R3	R4		R3	R4
指定管理料	47,194,000	43,688,680	事業費	1,612,022	2,091,373
利用料収入	1,811,027	3,106,653	管理費	45,174,873	41,214,400
その他の収入	438,827	284,085	その他の支出	2,515,296	2,658,955
合計 (a)	49,443,854	47,079,418	合計 (b)	49,302,191	45,964,728
収支差額 (a)-(b)	141,663	1,114,690			

※参考

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

利用料金減免額	141,500
---------	---------

4 成果目標とその実績

成果目標	延施設利用者数	27,500人
	定員稼働率	17.0%
成果目標に対する実績	延施設利用者数	13,220人
	定員稼働率	8.7%
(参考指標)	施設利用者満足度	90%以上
(参考指標に対する実績)	施設利用者満足度	99.4%
今後の取組方針	<p>・設置目的である「心身ともに健全な少年の育成を図る」という目的達成に向けて取り組みながら、新しい体験メニューの開発を目指します。また県内の小中学校への修学旅行誘致や各種体験メニューの紹介等積極的な利用促進の取り組みに努めます。引き続き感染症対策等にも十分配慮した施設運営を展開していきます。</p>	

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B	事業実施に関するものは、指導系職員を中心に内部で検討し、改善できるものは直ちに着手するとともに、施設設備の維持管理については、職員で対応できる修繕等(食堂床修繕)については、自分達で行うなどコスト削減に努めた。ただし、昨年同様、専門的技術を要する事業については、外部委託とした。(本年度は1F女子トイレ洋式化修繕)また、施設の情報発信として、実施した主催、共催事業の活動報告をスタッフブログにおいて掲載し、今後の参加を呼び掛けた。また、昨年度に引き続き施設内各所に手指消毒液を設置したり、利用者退所後の布団の天日干しを行い、「感染症対策」に努めた。
2 施設の利用状況	B	B	昨年度は「感染症対策」として宿泊定員を通常より50~60%削減したり主催事業の募集定員を減らして対応してきたが、4年度においては状況に応じて徐々に宿泊定員を引き上げたりしながら対応した。コロナ禍以前と比較すると、まだまだ利用状況としては厳しいが収束後の利用拡大を目指して、事業開催に取り組んでいきたい。
3 成果目標及びその実績	C	C	上記にも記載した様に様々な制限を設けたこともあり、成果目標には及ばなかった。今後は「新しい生活洋式」に対応した施設運営を目指すとともに、宿泊体験研修や修学旅行先としての利用促進に努めていきたい。

※評価の項目「1」の評価 : [A] → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
 [B] → 業務計画を順調に実施している。
 [C] → 業務計画を十分には実施できていない。
 [D] → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 : 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 当初の目標を達成している。
 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

<p>総括的な評価</p>	<p>・徐々に回復兆しが見られるがまだまだコロナ禍以前と比較すると、厳しい状況が続いた。令和5年度においては成果目標達成を目指して、営業活動等にも力を入れ取り組んでいきたい。 令和5年度成果目標 施設延利用者数27,500人 定員稼働率 17%</p> <p>・主催事業の開催にあたっては、感染防止対策として昨年同様に募集参加人員を減らしたりしながら実施した。平成25年度から実施している東紀州エリア、隣接する和歌山県新宮市内の全小学校へのチラシ配布を継続した。また募集には例年通りZTV等のメディアを通して募集活動を行った。</p> <p>・開催事業を地方紙等に掲載することで、施設利用のあり方及び認知度アップに努めるとともに、ブログ等においても情報発信に努めた。</p> <p>・「利用者アンケート」を宿泊利用者、日帰り利用者、主催事業参加者の3通りに分けて行い入所の全団体を対象に行い、要望を把握し、直ちに改善できる事については対応し、サービスの向上に努めた。また、コピー用紙の両面利用や封筒の再利用、個人使用の消耗品への名前の記入、また昼休みの消灯等徹底したコストの削減を行った。</p> <p>・施設設置目的である小中学校の宿泊研修の場として、県内外からも利用していただけるよう引き続き営業活動にも力を入れて取り組んでいきたい。また、スポーツ、文化クラブの合宿基地としての役目も担っていきたい。</p> <p>・施設の維持管理については、修繕計画を立て優先順位をつけて修繕を実施した。本年度においては1F西トイレ女子洋式化修繕を実施した。</p> <p>・利用者の安全確保のため、「危機管理マニュアル」「災害対策応急マニュアル」を作成し、職員全員が携帯し備えた。迅速、的確な対応をすることが出来るよう心がけるとともに、職員を中心に防火防災講習を実施するとともに、県が主催する「ミニ人権大学講座」に職員全員が出席し研修を受けた。</p> <p>・業務の執行は、事業計画書に示された内容に基づいて取り組むとともに、職員一人一人が複数の業務を執行できるように体制づくりを行った。また、業務の目標を明確に掲げ、達成に向けての取組のプロセスや結果を検証し、評価・改善しながら効率的で効果的な運営に努めた。</p>
---------------	---